

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 デジタルブック・ライブラリー整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 図書館 管理調整係 電話番号：058-275-5111（内291）

E-mail : c21803@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 20,000 千円 (前年度予算額： 10,000 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	10,000	0	0	0	0	0	0	0
要求額	20,000	0	0	0	0	0	0	20,000
決定額								

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

令和元年7月より、来館が困難な利用者へのアウトリーチサービスを目的に、電子書籍（デジタルブック）を導入している。電子書籍は1コンテンツあたりの単価が高額なため（平均7,921円）、導入から6年経た現在も、充分なコンテンツ数の収集に至っていない（令和6年度末現在、収集コンテンツ数7,380点）。

近年においては、「読書バリアフリー法」の施行（令和元年）、新型コロナ禍後の「新しい生活様式」の定着、また「第3次岐阜県図書館の運営方針」に掲げる「非来館者サービスの充実」の推進のため、「デジタルブック・ライブラリー」の整備・拡充が喫緊の課題となっている。

(2) 事業内容

岐阜県図書館は、県下の公共図書館の中核拠点及び情報の中核拠点として、県民文化の向上に寄与することを使命として取り組んでいる。

令和8年度は、紀伊國屋書店学術電子図書館「KinoDen」が販売する電子書籍約2,700点を収集する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
使用料及び賃借料	20,000	電子書籍整備
合計	20,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「岐阜県デジタル・トランスフォーメーション推進計画」第2章III 4 文化

(3) デジタル技術の活用による書籍・収蔵品管理の効率化・省力化

(2) 後年度の財政負担

社会のデジタル化に対応するため、従来収集している紙媒体資料（図書、雑誌等）と並行して、電子書籍の収集が必要である。

令和4年～8年度については、県の「DX推進計画」（R4～R8年度）の達成のため、下記のとおり計画的に収集し、令和8年度までに累積コンテンツ約2万点からなる「デジタルブック・ライブラリー」を構築する。

- ・「デジタルブック・ライブラリー」整備計画（令和4～8年度）

<新規収集コンテンツ数>

R4年度	1,085点	(予算額 937万円)
R5年度	1,364点	(予算額 1,000万円)
R6年度	1,123点	(予算額 1,000万円)
R7年度	1,340点	(予算額 1,000万円)
R8年度	2,680点	(予算額 2,000万円)

※整備計画の初期は、単価の高い専門書を中心に収集する。

- ・紀伊國屋書店学術電子図書館「KinoDen」

販売コンテンツ総件数 約109,000点（2025.1現在）

年間増加コンテンツ件数 約31,000点（2024年実績）

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

来館が困難な県民への情報提供を目的に、令和8年度までに電子書籍（デジタルブック）約20,000点を整備する

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①累積収集コンテンツ数	1,775	7,380	8,720	20,000	20,000	36.9%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	・分野別収集実績 ビジネス136点、地場産業58点、健康医療109点、法律17点、 事典類28点、海外情報27点、子育て13点、障がい・高齢福祉28点、その他669点 (合計1,085点)
	指標① 目標：20,000点 実績： 4,893点 達成率： 24.5 %
令和5年度	・分野別収集実績 ビジネス261点、地場産業52点、健康医療205点、法律59点、 事典類24点、海外情報293点、子育て21点、障がい・高齢福祉47点、その他402点 (合計1,364点)
	指標① 目標：20,000点 実績： 6,257点 達成率： 31.3 %
令和6年度	・分野別収集実績 ビジネス118点、地場産業80点、健康医療78点、法律38点、 事典類36点、海外情報49点、子育て23点、障がい・高齢福祉24点、その他677点 (合計1,123点)
	指標① 目標：20,000点 実績： 7,380点 達成率： 36.9 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	社会のDX化が進む中、いつでも・どこからでもアクセス可能な電子書籍は、県民の情報収集手段として大きな役割を果たすと考えられる。また、図書館に行くことが困難な方、障がい者や高齢者など、読書が困難な方に対する読書支援サービスともなるため、紙媒体と並行して充実したコンテンツの収集が必要である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない
(評価) 3	非来館型の図書館サービスに対する県民の期待は高く、導入済みの電子書籍の利用も増加傾向にある。本事業は図書館の新しい方向性を打ち出すものであり、期待以上の効果が得られるものと思われる。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている
(評価) 2	電子書籍は、資料の貸出・返却・督促・修理・排架等の業務が不要であり、職員にかかる業務負担は少ない

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

さらなる利用を促すための、広報活動。特に、図書館に行くことが困難な方、障がい者や高齢者等の登録を増やすために周知が必要。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

電子書籍の出版市場の拡大、社会のデジタル化への対応として、電子書籍の整備が継続して必要となる。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	